集義和書

ロ13
3539
3

門口 13
3539
3

49-1923

近衛

集義和書卷第八

義論之一

一心友問論語は教仁を主とし大學は教知を主とすと何や

答曰論語は聖人いまして直ちに行ひ給ふ仁徳の外なしいわゆる大學は聖人をそむき去り後聖世より出給ふ故に問学ありて知を主とし給ふ智は徳の神明なる性の先見するものなり天下の惑を解くと智は徳の用なり徳は智の体なり

分類 ろほ
番 3/9(3)
通番

自反慎獨は実体なり聖人いまだ学ばざる時同学すべき人徳の室なり

一心友問貴老易と孝經と孰か先なるか易は玄妙深遠廣大高明なる書なり孝經は童子の始めなる書なり

物よりそれぞれ名かひなれども
くるく旨遠きものハ善言なりとハ孝経ハ
天地よりて道徳と賛ハし給ふなり其語勢幽遠なる
孝経ハ人倫よりあく道徳を教給ふなり其語勢親切なり
家とられてよく易とみるハ者ハ近く身より取て親切を受
用し幽遠の事となりてよく孝経を学ぶものハ詞ハ
近くして天地位し万物育するの極功神聖の能事
あるふ事と言ふと孝経ハ句ごとに心をとゝむ色こゝ
ろをむつよ所をあきらめ見ハ大抵ハ見様ハ易
ハ勿論大意あるとして句ごとに窮ることハ道理ハ
畢竟易と近く見孝経ハ高く見ハ孝経ハ人

若云言近

ハ易ハ天道なりと近く人道ハ合ふ角ハ孝経ハ人
道なりと遠く天道ハ合ふ角ハ程子云易因爻象論
變化因變化論神因神論人因人論德行大體通
論易道而終於默而成之不言而信存乎德行なり
ハ易ハ畢竟人の德行と成ハ由ることなり人の德行
ハ孝より大なるものハ

一心友問孝之心法　答曰孝ハ天地未畫ハ前ハ大原
ハ神道なり天地人万物ハ孝ハ生せり春夏秋
冬風雷雨露孝ハ生せり仁義礼智ハ孝ハ
條理なり五典十義ハ孝ハ時なり神理の含蓄ハ
ハ孝ハ言語ハ孝ハ行ハ孝ハ象ハ
取て孝と言ふ字老子の二字を合て作る字

の傍偏となる時は畫となる已れり天地はいまだ
きざらざる大虛なる時は理と氣とを天地とせる開
けていまだ天と地とを乾坤と名づけ六子ありて
次日月となる易の字日月を合せて作る
日月光を其義一なりと易と孝経とを兼ねて紀道理
也心を考ふるに心とは人倫を中國を考ふるに素戔嗚西
戎北狄とあるは人を考ふるに人と婦と
なる人德性の感通をいへば人なり愛なり此
理を以て方寸の事方物に行ふ孝の理なりとせば
ものなり此神理我が心に有ると雖も受用と
すれば愛敬なり上より見て孝也幼子を携
多能作りて愛敬せざるもなし

ならず作りて敬の象なり其親を愛するの心を
天下に及ぼすものなり其親を敬するの心
を天下に及ぼすものなり愛敬
親に始まる一心の上に盡くす天地同根万物一体
性命の分なるを一日も私欲に蔽て天理存する時
其人と為るなり外に其小と為る内に其大
に初く仁を以て一義を孝の勇なり禮は孝の品
節なり智は孝の神明也信は孝の實也赤子孩
提の時孝の理行く親を愛するに發出る花也
絶ゆるなきがごとくもろもろ其長ずるに及て
心に親族を愛する敬は花の清香のごとく此愛
敬の德親に始めくわらく孝を安合の花をわら

なれば親よりはのち子道は孝にて父母を愛わ
ゝ敬なれば父よりつゝしゝ愛敬なしゝ
なれば子みをいてゝ愛事は用ゝ敬内より他人を
慈ゝ云父乃慈ゝ子の孝ゝ云合ゝ父子有親ゝ夫婦
徳君よりたゝしゝ敬外にて愛内なれば
愛敬なゝしゝたゝして威厳備ゝ仁政行ゝ君は信
の忠ゝ合て君臣有義ゝ妻よりしゝ愛みゝ
ゝ敬なれば夫よりいてゝ敬ゝ用ゝ愛なれば夫は和
義ゝ妻乃順ゝ合て夫婦有別ゝ心ゝ
はすゝよりゝ次心乃始ゝ自ゝ変化ゝ
ゝ其中ゝ物ゝ生ゝ未淺深乃天則ゝ
知ゝ父よりゝ兄弟ゝ和ゝ子ゝ愛

すゝ兄の恵ゝ弟は恭ゝ朋友は真実ゝ妄乃天道ゝ父母ゝ
ゝの朋友よりゝ先ゝ別て朋友有信ゝ
の人ゝ子ゝ違ゝ父ゝ
君の前ゝ臣ゝ君は家臣ゝ
畢竟人の人ゝ
心乃一徳ゝ
ゝ

一學士ゝ問て云顔子ゝ
ゝ事ゝ大賢乃心地ゝ
受用ゝ道ゝ
事ゝ

長幼有序ゝ朋
ゝ又君ゝ稱ゝ
ゝ違ゝ
ゝ神通変化ゝ其義
ゝ

答曰ゝ
ゝ学者ゝ

聖聖の地位すらくハ事とさ様ふすとの分ふるようなり吾人
と以ことを知さ所よ心得ちうもとる過ハ大よ悔さらう
て其非を知くるる以後ハ二度せさる事わると自己今日愛
用みちひて過ハ二度せさるの工夫ハ也そに人よ用ひる
心なくして道よるるるとと過らひ心ありて過と過と
悪とのの思ともとる事心上よ一念道をとるまわると過
ハ既よ悪ハ二度ハ過ハ二度ハ思よて発とる速よから
ちとなくハ大なり爐炭中一点の雪ハちるが
如くハ大乃上まて行とつまる火気を以く消ーさ
るなるかしあくを道とるるるれ念慮とるて
不善ハ過と知てひとれなるち二度ともまた悪よ近ー
吾人ハ人ハ気質と変化せる其平人の位とわをさる用

其心地ハ位ひくなる用思雑慮ハ晝夜よ幾度も
ちる事なるとなるハ百度萌ちるとるとすく念慮
ハ乃上よれはさるとて速ふかちるとなく浸惰
くも怠なるを受用とる位よを遠ふるて
優ちるとるる色ー問聖学の心法ハ如きわる
ハ如用新なく受用せハ絶よ君子ハ地位とる
全及なんう答云ハ尊徳性の工夫也ちよ
ちうるとるちる居く慙ちるまるち学問なく
しくハ今日の常人の位とわをるとるちる
右ハ工夫ちるまるて浸くぬハ退屈ちる惑を
糊つく真智照わるとる今日の凡位とわをわか
ちよ只とて晝夜よ中とつるる間思雑慮の安ハ一度

よ十を二十を乞ふ人あり此の妄ハみな眼を開き耳を
あらはすことなり大陽東より出ぬれハ夜中ハ出ぬ
さる抵牾蚊虫のあくむしもすべて皆何方へ行やらむ
なれハ也さて又ハ歩士あるんハ歩行ハ者すく
其風の卑俗なるを悟り神ゆゑ也んゆゑ思て
若骨ハ行てあくせい舊習出ぬへし馬よ乗ぬ
ハ身上よ成とさなの歩行の者ハ風俗ハ也
ちなくなるもの紙身のくうういうむと嫌てく
ふりの先徒とを時ハ心ひをとれまん
心法ハ受用御新なること隠ゝよ其伝ハ
て他ハ徳よハ君子ハ地位よ
貴義ハ也

書ハいうまとを其氣うしあのものみらへを
人を一人ハいうくハ終日其氣ときハ顔子ハいう
ハ其不義其悪逆ハ少ハ其怒ハ氣ハ鑑ハ義を照し悪を照
とくさて仏なれハ仏ハ
ハくハ仏也とも其分ハ今日ハ受用と成
ハ聖賢の嘯ハ今日吾人ハ
て聖人の怒ハ同しさあるとあるむし物語
とさてハ長田ハ義朝を
なるハ誰もハくさ心生しいハ養ハく
其時ハ居まるハ一切ハ
ハを他ハ不義無道なるハ

心生じねとうまとも此怒も性命の正りなり
つまく私欲のましらなれば身の氣も廣大
剛強なわるくかるとあく相火の力たるなり
心常よりも清明なわるを一ハ名紙ふるとい
へども聖人の心地より逆くなるを怒よりいれん
と云聖人を今日の交接といへさと私欲ましらなく
万事の性命の上より発するなり如此吾人ハ他人の
上も如此く明なるを身の交接をもなすをいて
へ私欲ましらなる気より其怒欲ハ道理をも相火
大なるを内心ハ乱なり
こう言語つまくとあやまり平復の時後悔
怒よりいろとつまを文王下もいろ治へて天下ハ民安し
人ハいろ治へとも人のしハ悪人退き書而動らして悪人をそれて其遠
心の肝と潔なり怒のまとあるを悲哀といへとも吾人よ
つて聖人ハ逆さまあるとあ百歳子歳着の事漢文侯と
なる物ハ衰ハ物ハ衰ハ文ハ道理の極を同て八渡ふ
まして心ハ一次一代ハ心眞實剛直の情よりをこれといへを
ハ心の靈覺ハ行くかる地
悪念忘思て善よ近
一学友問格物致知の心法ハ古昔ハ経すもなく孔聖ハ語よ
をもて伝ふ子思ハ伝く発し治ふ 答曰易ハ六
十四卦其位よ應しく格致ハ心法あるを云ふ易簡ハ
自ハいつを一を通一を様よ初くはをを治ひしまハ堯ハ

舜より傳へ給へる執中の心法也孔子顔子より傳へ給へる非礼視聽
言動すなわち是也是をみがき格物致知の義なり曾子の一貫
と思想しやうを始めとして子思又孔曾の傳の心を述て純一
章とあるは時格物致知しつくすといふ　問視聽言動を云て
肝要の思を強し給へるは如何　答時と云て主用をいふ
こゝに元亨利貞と云て誠をいふこゝに仁義礼智と云て信をい
ふこゝに四端と云て其内にて其内にてものをいふこゝに
き視聽言動に四のこの思を主とせしとこゝに其上顔子
ぬ思の格に不用あり中人以下は善と思の善を行
て悪と思の悪をなしよりおろかなる心思躬行とは善
ならずして悪なれど善人と云ふ例をあらはし初なりと見よ
と信義大聖神よりも顔子は賢よ大人なり悪念の
靈臺に往来せざるは善念を示往来をば何
の思の格にもちゐやもちゐるとこゝに三月仁を違はなれ語あり
春夏秋冬みな三月にて相易るものなれば三月とは
一年中のなり年月日時とこゝに終に仁よりなるなり
然少年に三月違はなれしとあるは何
ならずしあるあやまりなるふしをもくすることをもく
然不動よりもく感して通ずる聖人の心地なれば一なれば
ずうとあるもとこゝに一序の浮雲の大虛を過ぎ
ずあるしるべこゝに平人なれば善念
とも顔子よりはいまだ自然の仁よりさかるは其善
念を須臾とゝめて遠しなるしく復すなり　問心上な
如此ならば視聽言動なる未の事を善なるとはいふ　答

顔子高明廣遠なる事よりもはるかに聖人は同じ今さら告
げるまでもなく聖人はもろもろの物を窮め急
なりわれの事は心をつくし強いるばかりにあり仁は天地万
物をもって一体とし強いるまでもなく
まれに事成若なって顔子治国の論はもっぱら輔嗣等を
以てむかしの注釈をもってすべし　問先生は論語陽明子の
傳は何ごとも朱子王子格致はもっぱら黒白のたがひあ
るといいて　答愚は朱子はもっぱら陽明はもっぱら古の
聖人を取て用ひ行なう道統の傳のごとき来ること朱王
共に同じ　其言は時よりもっぱら発せる所　其真はもって
符節を合せるがごとし　又朱王はそれぞれ別あるは朱子
は時の弊をたすけむとなりたるは窮理を窮究惑を解るは上は聖
人の

自反慎獨は功なるよりも王子は時に敬にたりて自
反慎獨の功は窮理の学なるにあり愚拙自反慎獨
の功は内より自ら受用と成すは陽明の良智の発起は惑
を解るは朱子窮理の学よりもはるかに朱王の世学
者はまったく異なる地と見るは易は同じ物々は理と窮理とは事
物々は理と空よりいたるまでのちがひなるは学者は
心はまったくあるは事物よりして其理を窮るはさ
ればこそ陽学は時の事物はまったくかなる天意心は知得をもいい
まこと不解不知の事千万の事物あるまじきことを
中庸にはまったく異学の一代心を盡を惜しいふものを
聖学はまったくはかりをいはれ心をもって学をもって
ひろく得るなり

一学友問云同しく聖賢たる仁義孝行をつとさ
ふしたまひしかとも大舜文王曾子閔子の數人をのこり孝
の數に入給ふこといかに　答云歳寒して松柏の凋まさるを
ふかく知るなり仁義孝行平生無事なる時は聖賢も善
行をなしがたく不孝不義なる人の無病の時も同しく理をもつて常なる其時かれも
ともらん人なる所ワのちかつて明者八月なる黒白なる
ものなるなり事なるとも大不孝なる大悪人なるものは
ら孫八夏山八緑八夏木冬木なるワのちかつねなるを
仁青山としらんなるなり大難なるあひ大変なる逢て
ん人と君子のことのちかつよりなる孝子も数なるいかに
聖賢をいつまとあるなるの境界常なるねなるあるなる

て仁義　問人の行ハ孝ならんなるを孝行
聖賢ハ世にあらんなる聖賢の事ハ人ハ
そもそも氣質なる養なるなりいかに大道を人もして入德の学ハ
ちつさまとを氣質ハ本氣の精を多くうをてもつねに
也ハ本氣なる神ハ仁なるなる慈孝忠切なる心なる
ふものなる孝行なるものなり其方乃氣質なるあるを行
又他の靈明なるを孝行なるほどなる挙用ひて国家
の政道なるを人不孝なるなる多く行ひ此人賢聖の師なる逢て
心法と受用せしなるを人ハ父常の人なるひ各別入德の
功なるなく他人不孝なるなるをもつて行ひ曾子の
さなるをしり曾子父のためなる所をなるさまをわやま
ひなく仇の根をなる曾皆怒なるく大杖をなるきく曾子とう

つ曾子ひとく地より伏して狂者なりと
ひとく曾子よりみれば父乃心をくるしめ
給ふかゆえに曾皙の前より跪き大人力
を用ひく教ふ云て我方ゆり琴を弾じ詩を詠し
て父を醒さんとなれども紙をしめかり涙を流し感し
ひ給ふ人倫ひく夫子は若ひ孔子聞給ふ吾道の学者はの
ら法門をもとなるもの侍者給ふ其教を問孔子曰我人孝
と教ふ夫孝と申とは舜父小杖を持しう門に
ハうるまて退き給ふ大杖を持ふ追ひ其あるは近付給
ハ父を去て人を教給ふ罪よりも大也今曾子舜よ
この人りを思ハそれも若其まくよ犯ふ曾皙ハ孝子を
殺給ふ罪とのあるまて河ケ大杖をみく舜ハ逃給ふ心と同

の長ふ者ありと門人曾子よ若ありり曾子聞ふして其罪を謝
ふ曾子ハ生得孝ひなり志ふ乱賀人曾皙純木訥なる
而あるとき聖師よつくて大学の心法を受給ふ人愚
なれども明らの素なれども剛くきなる神化変通して
大賢ハ位よりも行給ふ天下ハ第一の人なり
一心定河孝経之大綱　巻首孝経乃心法ハ正心修身天命を受
ふして人を虞舜の位よ隨て道と行なる天乃人城ふ
と物あるとも則ちの天子ハ富貴ふをのつく天子ハ則
ちの公侯伯子男とのく則ある卿大夫士其道ハ農工
商賈物あり其行ふ而乃大小ハ各別なるとも孝ハ心法ハ
いとうなく大河の水のながるとも隨て象と行ふ
方くあく田地乃高り井をつくるハ其井を掘くよ流を

まそうしたことを就て晝夜孜孜そのたゆまず温習して内外
なるものの性ハかくのごとく君子の象なるを小人の心法ハ外を
飾りて内昏しこれ不善を攻めて燈
臺の下を照らさざるがごとし天下の人みな明らかにして
不足をとりて温習せざる人の性をとりて天下の人みな
我がごとくなるを不知ことを恥ずべきなり天下
平らかなるべし孔子の門にて異端の地をこのごとく崩を
孔門の学者ハ皆人この市産あり多くハ日本の他士と云わ
ずくまく古風の田地の家督あり学ハ正心修身の志を
まもるとのみなりて天下を国用のためにあるを
仮儀なく出産なくしく道理なく人よりなるを
ものハなりとを堯舜三王の盛なるを可恥ハ

らずして何となく五等の人倫をかの様なハなる勢あり
孔子の時を得ざりしかして天下を周流しかるも古
のみなる風なりと聖人にして時の変を行ひしのみ
後世の人ものを仰せず二三変すれハ五等の人
倫の外に道学をもうけ家を建て産業を
すべ去出来る勢なり孔子ハ方々にて小官をも辞
せずして仮儀をつくめるひさ孟子ハ如くハ
師とあがめられて方々の他にあり官禄なく産
業なく徳ある人なりしかるに孟子ハ賢
まく孔子より継ぎて天運の変を行ひし人なるを
其身をもくくるべきなり後世より孟子を要
の徳なる人孟子の風なりしかるに時ハ
ずくく道学

を決く産業ともろもろの事をなすむ其人私欲を
はなく道と行ふくを五等の人倫を離れて道者と
云ふの如きの時はしも五等の人も道を離れ家
わり絶ぬ道学へまる人物と成て天下國家の用に
なる其後道者佛老らく人倫の外は道を絶て
後世くすの者多へ爭ひをとりうい乱なり孔子此
萌を見給ひ加ふ五等の孝を発明ふのふかり
万嚴道学の鑑也此鑑に違ふ人は堯舜の位はあり
さるも明らきし問五等は數をくるる事ぬく況
し古らくを五等しうわ此ぬく人間違をまし紀ぬ
ぬ世のは也給り 曰大綱は五等なれを其一等
くは額ひ多し天子しうの只一人ぬく位ぬ

日本は今ぬそいは大樹一人也諸侯一等と公侯伯
子男の五品わり外ぬ附庸の國わり日本ぬくを名
しそ違ひ三百四五十万石以上は公侯ぬく
く三十万石ぬ上下は伯のく十五万石ぬ上下は
子男はく十万石以下は附庸ぬ也諸侯一等
の内のふわり卿大夫一等と其德行役儀の道理同
しくぬ大小高下をしうく一等とうり其内は
ふ卿ぬ天子の公卿大夫は公卿を公侯ぬ
大夫は伯よりはく元士は子男ぬ諸侯の卿
大夫を小身なを人の君の命ぬ
之國政ぬわり家ぬ天子の老諸侯の老を大臣
ぬ老臣ぬ行事ぬ

ゆくゝと諸侯ハ其国ゆ君ゝく役儀かけ也ハ人君の
ゆゝを法なゝとも天子と客ゝれをゝて待ゆゝ
ゝ今日本ゆくゝと諸大名乃系府れ遠近ゆ老中を
御使ゝくゝゝくゝゝゝ同和かゝ日本王
代乃ゝ上代と中世ゝ時勢乃かゝゝゝと考へ
らゝゝゝ此禮を行ゝゝゝ天下ゝゝゝゝ
なゝゝ聖人の様よおしゝゝゝゝゝ長久なゝ
ゝかゝゝゝゝゝ其内ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ徳行ハれゝゝゝゝ番頭并一人之の歴
と上士ゝ云ゝ物頭與頭組付よてゝ千石以上乃
人ハ中士乃ゝなゝ千石以下の平士ハ下士なゝ所
同代、武家なゝ中夏代士師なゝ代宮ハ農ゝ兵ゝ

しゝゝ上古の役儀なゝ一日本の今ハ兵ゝ農
とゝかゝゝ所ゝ下士乃役ゝなゝ或ハ庶人乃宮よゝ
かゝの役ゝゝ成ゝ戸大坂の町奉行ハ中士の役ゝく
職勢ハ今の上士ゝゝれりゝゝゝの国ゝの町奉
行ハ人ゝ下士ゝゝゝゝ中士ゝゝゝ
の物奉行ハ如ゝゝ下士ゝゝゝゝゝゝゝゝ
きハ庶人乃宮ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
大身の子ゝ小身の子ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
庶人乃宮よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
町ゝゝれゝゝゝゝゝハ庶人の宮よゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ醫者ハ庶人乃内工商乃ゝゝゝゝゝゝ
庶人の宮ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

文道樂道醫業かしこの代々其家ありて世をすぎ
心ばへ用ひて伝しこうあ なりわたりまたまた家に成
くんのすると物もくハ学むうまとなりたを人ゆくも
其道より得ることの人出来ハ其家へ数ゑしくわり
道学ばかりもうり史官物よりこの外ハそまを若し
ゆうこの真家と云ものなし紀程なり其ゆへ五等
の人倫のうちに学ぶ人々の業ハをもあく受用すり
ものうり人幼年より学ひ壮年ハ行ひ老て教ゑ
古今の常なり誰道志しあるいなく親ハ子の
師ゑうるもし其同しを人の四を以て上とする大
学小学ハつゑを余しゆふとするハ行ふり人を
ゑんひとく学問すり人をもくくの数る家をもを

道理より士といふものハ小身ゆへ徳行の効ハ
ゑハ上下通用の位ハ天子諸侯卿大夫の所ハ成下ハ
農工商と数へ治ゑるものハ秀ゑるハ諸侯公卿ゑり
ゑまを庶人ゑもり才徳ありてもあり隠居しゑ庶人と
同しく居を處士といふ大道を任して志大ゑるものハ
士なり公卿諸侯の本地なり賢なるハ公卿諸侯
をそゑいく士を敬しゑれ徳ゑ年と位の三を天下
の達尊といふ朝庭行ひ上下の礼ありて和ハ位
をゑひ常の交ゆハ年を世ゑたをを人ゑ長ゑ
の道ゑ物ゑくハ徳を学ぶゑ公侯を士の賢ゑゑやまひ
ゆひ士ハ公侯の位をゑやまひたゑひ相敬するの義ゑり
志同しく心を友とする方ハ双方ハ重ゑる卑相忘ゑる義を

あり道と為るべきなり我邪を忘れ一且の浮利を貪り
富貴に奢り士を慢り徒に徳あるものは隠れて
不出中人以下の去いやわるる心のもつて軍に成
る天下よりして士農工商のなり物庶人一等と云ふ
農とは耕作工商は農をたすけるものなり工匠
しのわざわしは鍛冶白銀や塗師屋小細工師なども
何ぞ職とする者なれ云商人あきなひ居るものも
わきまへすれども四民おのおの其分をなすこと
通ずるを本とす不仁なくして金銀をもつて世に渡る分
いれ物なくして商ひまれ人の為に農なりと農人の為に
士なりと云ふ者なり物の接合をし指図を
うけ出ものと云ふ

惣の裁判の為め撰びの者ども士の役なり在し
所あるべき後又秀たるものは惣の士の談合し
いさまして諸侯も其ぬ又諸侯の内にも大に秀たるも
其徳四方へきこえるべく不及所此人より道理なるべ
き寄合てつかうまつり天子とあふぎまつるものなり物士
の中なる公卿と云ふものは公の役を農のものより工商
を卑しく天下の万事備り天地の五行に配して五倫
五常の道なり

一学校問孝を以て天下を治めいにしへ孟宗は孝
なりと天子と仰ぎ堯舜の御代なるべきより日孟
宗は己の数子は為に天質なり義なりと性命を学ぶ
委しく明らかに為を以て其親に事へる又情欲の父

母也聖中より孝を求るハ性命ハ父母より受の心なり
故に舜ハ父母より孝を求ル性命の父母より孝を源孝を
尽して天下を治る心を尽し性命ハ父
母の時分父母の性命より孝を求ル得る愛
敬尽於事親而徳教加於百姓刑於四海ハ是
如此天下皆正人となる天下正人となる時ハ天下の人
の悪心を得て其父母より之を祖天地大虚ハ
よ其悪心を得ル此時ハ乱て天地の気行て和の
和ハ鳳凰麒麟を出大和の気中ハ生し神龍亀
を海中ハ生し風雨民ハ願ひ應し五穀大よみの草
草木生長して留滞なし鳥獣魚鼈ハ其生を遂山
川の精魅魑魅皆吉神ハ化し蛇蝎ハ龍ハ隠ル
根深山ハ通ル是ハ聖人ハ天下ハ
沉溺滞魄一時ハ消て此ハ聖人ハ
いかゝ乱て残なし天災地妖ハ
乱何ハ乱れ邪気ハ
情の相勝ハ疾病ハ
天下を知ハ至徳の化如此中国の民ハ其風を
いかゝとして東夷西戎南蛮北狄の耳ハ
聞ハ知ル四海ハ此時ハ
ハ孝ハ尭舜父傷の
孝を以て世ハ何を
る紀ハ明孝を以て
側の樟鶴鷄の

四海の教あり天は四時のあるがごとくに第一海は條理也第二
海は極功也春夏の道は配とし第三海は反畏敬心法を
発明し第四海は義を法とし秋冬の義は配し

一或問他の國々は誰か天下を取て王となるや答
あり日本のごとくは天子は御簾一続にて天下を治め人民
を綱し將軍は天下を知るばかりにて天子は
うしまもるや云中夏を天地の中國にして四海の中にあり
南は六九國あり西は七の國あり北は八九國を東は九九
國にて是を四海といふ南を蠻と云中夏は西は
戎と云いはゆる蠻夷戎狄と物と云ものあるべし
東を夷と云人はかくしまるを四海の内にてもぐるを九夷
の内にて朝鮮琉球日本をさすなり此は中夏の外四海の内と月本は
さ國なり是天照皇神武帝は御德によりて大荒の時某
の地生の人は禽獸に近しかるに天照皇は神聖の德をもて
此國の人の靈質によりて教をなす法ありて人道
はじまる天照皇は地生なれども神武帝其御子孫
にて天統をつぎ人民系圖を云事と王孫のたぐひを
國土の姓は異なるなれども極まりて一家たるべきなり
じ天統とつぎ地生は少し天下をとりそと帝王
の號を得事不叶三種の神器を身はなさず奉りて天津ひ
つぎ此神事は天照皇の恐多く且天威のゆるぶかり
日本のわんかたはかくのごとくなるべし他の國は此例に
て日本は必統の理也同かくのごとく少しあり帝王は天下

何ゝして武家共ハ云謙徳を先ひゝし
し所ハ天下の権威を先ひ給ふ事ハ日本国中
国々おのゝ今の様なる国郡の大名おのゝ
ハ官ゝして受領をつゝし給ふ国ゝハ農兵也其後王徳を
ゝ人国ゝ中絶なる者出来て王命を用ひさるゝ伝
よつゝハ王ゝ人則其国を治め子孫ハ代つゝ国主なく
なりて国ゝ王ゝ歴ゝ大名なる者を宿位なきゝ人ゝ
稱し宿位甲を地下と云ひて恒しめ分ゝ所也
其心ハ王城を上ゝ国ゝ中ハ王居なる
所ゝ武家ハ其折節武家の大家棟梁を取ゝ
前ゝ公儀有事代ゝ王ゝ武家
者の武家ゝ根本ゝ武家

と云ふ所ハ知ぬ事也ゝ者ゝ
世ゝ武家の天下と成てゝ五百餘
年の間ハ天道命と成ぬ事ハ七度ゝ代乃ゝ
ゝ何ゝ云ゝ謙徳を先ひ給ふ
ゝ代の物ゝ傍輩ゝ事近ゝ士の礼儀
正ゝ富貴年ゝ者ゝ長ゝ者ハ将軍
の士ゝ国ゝ士ハ地下ゝ
ゝ武家ゝ中の法士ハ頭
のゝ武ゝ様ゝ家ゝ
ハ御威光ゝ礼ゝ眉間ゝ
ハ王ゝ道ゝ
ゝ諸士
ゝ時ゝ得て

代ゆんとれかのふものをくすし箱車にのりはべりいまは紙
加者ゆいをり同今時公家ハ小身ゆえ官位をくなを無
礼とをしのをりひしの名職わらはれ給ふ其非と
をわをらぶるめくをとをしまもや云をうをぶむをも
奢つをめをくを権威を失ひ給ふをもを其時
の事なり今ハ位をうをめく持ふ公家ゆく牧ふしまを
ひをしをもひをうをりををくを今ハてをめををうを給ひて
公家ハ絶ゆしひをし権威わをし時をゆを謙をを給ふを
ふし今ハ中をしをををくを武家よりも位ふを敬
なをふを礼儀ゆをくを同時ををく公家の天下ゆ世ふを事
を可ををう公中をくゆをふゆをしくを世ゆをふをを行ををの先
未てをををゆをくを昔ハ武家ふを御氣をを貴を

事なふが今ハ何ゆ御用心をを御事をををを
いゆく位を位ゆををく多敬しゆを日本の為ゆを又將
軍家御冥加ゆをを也向日本の国ゆ為ゆを如何ふを
道理ゆや御冥加ゆ儀ハむをいををあををふを日
本を君子国をを行ををを其ゆをふをのゆを日本
ゆを礼楽の道正しく風流ふを国ハ東西南北ふを
事也をを也ハ禁中をゆを公家ゆを清盛頼朝
ふをのをを武人大君をを成を武勇ゆを天下
をををを武ハ野人ふを近をを結達者ゆ成を武家ゆを
ゆをををを行ゆを世ゆを次第ゆ上ふををふを
生しやをををふををゆをゆをゆをゆをを世ごを武勇
の達者ハ礼をを大方ハ心をを世事ゆを其外之

高氏野人なれども天下を取給ふの気あり國主たるべき
田夫なれども事いくもくくを分くれば幾度さいの
うりなれば二三百年の間あれば天皇南蛮よりうねわら
ずべきを成給へ禁中をまた少々天下治く
後しかるに將軍家を國を治給諸大名皆
ひとりのみの東帯衣冠の禮儀をなく行ひ人の
則ある事なれば御遊の俳諧管絃のみを成を冥
加なく太平のあるいさかりうれしきこと
身なれども今ふたたびまた海道をも
國天下のこと明君を立野人ともれたるも
ど天下なれば人なるべし必古禮をあきら
樂をたもち禁中をあがめ君臣共に天下の
教ひい天下の人を見てく感をかなを人を日本
の主節をしかくのあらあ免奉る主君となく
かしあるものの人をいたに道あり君なら我ふいなく國
郡を治ひとなるべし忠誠なれ
あるべし者をたちまち初ふかへしく普代の男
をもとり家なれて世の太平をやうう禁中
をりはなでいなく世德あらんやとをして日本
国のこと元ト自り今門良優云文道をぞを
武道終よりあらんと世良優い武家の世とうて
はるこの文武二道乃人也世の兵乱人は病氣
邪氣悪し紀時は其邪をせりはれ藥なくて
邪氣さりて其効薬しうう時は人参白朮等は靈

藥なくてハ治しがたし戰國ハ武勇をもつとめ
國を取ントスルニ敵なくすでに敵なくなりぬ
のち今月は養生なりけるべし久しく敵去て後の
養生ハ文武の道也病後の人參ハ病邪といふを
人參を主として攻擊藥を用ゆるなく戰國といふ
大將ハ仁義の德なくして不叶事也太田道灌ハ其初め
武者ぶるして馬をとらんを劍をとりて洗むるが如く無事有時
鷹狩をなすに鳥よりも人家の民の家ハ立寄てらを
うらなふを夫ハ野よりあく妻乃ちあり山吹の枝折
川折をもとめ御前ハ立てらくの言葉をもなくて入
ぬ道灌此乃家ハ初めてらくの言葉をもなくて入
くとて物語しをる時今月乃ちのうじ乃事と語をる其
中ハ京ハ宮歌道ハ人乃ちくしく其女を
少あり者の落ぶたるなるしむる夫乃ちのをもなく如く
四ハなりしを賤乃女ちくして大守ハ言葉をといからし
奉らむを恐ぶありと思ひて山吹乃枝をとりてなく
御いとまたるをもて古哥ハ七重八重花ハさけ
ども山吹のみのひとつだになきそあやしき其時道灌女
だうあくをしらぬを其時道灌女
事也國郡乃上ハ居をしらぬ職女をもとをもむ
より士ハ文武二道とをもて云なを我ハ武ハ將今よ
さをもとをもく上ハ和さらがをもとをもとを學
問を法をもとをもひて其法の武將ハ和ぬ文筆
の道者ハく詩歌ハ云ハ及び經傳をも學びをもむ

其学問の事ハ世よりもろ〳〵多し問ものゝ王者よ天せ
のかゝるもしれとも如何なる道理ゆゑとも日本
乃主なれどもかゝるゆへさあるくハ云代をかゝ孫
て天下ハたゝ人も天の廃をもう不ものとゆう故也
王者ハ天神乃御子孫にして地生よりあるとゆ日本
よをゆく廣大の功徳をつゝまれゆゑ人天下の權勢
をばうゝ治ひてやうゝうしして上よりまもべいの
まそも日本の主ゆくをりしまと道理あく行ゝ武家も
たとひ天威乃ゆゑし有とゝもうゝ手威くハもつて
を事也とゝく摂政乃心ゆく天下を知ゆ心易き
るや何ゝゝ分別のゝくく王ハ威ゆ自ゝん天地方
より〳〵奉らもてをまつてゝ申ゝ事也
後醍醐の帝ハ時ハ公家ハ日本の人情時変ゝく威
ゆひて出ゝ乃ハ天下を先ひゆて今ハ武くゝく
ゝ治ひ乃ゝ奉ゝ治ゝ乱逆
出まてゆをゆゝ武家の人ハ帝位よ
上ゝ治ゝ王の天下をゝ小ハ分別ゝ
自ゆ也ハ也ゝ一ハ道わゝ將軍家ハ賢君出ハ
ゝまて三十年を用意ゝ家ハ作ゝゆく地頭
ゝくゝ三代ゝの法をまゝく奉ゝ治人ハ
ゝも何ゝいて又五百年を風波なく世中ゆゝ
自ゝ後世ハゆくのゝ人出ゆ自ゝもゝゆく
同永禄天正の比禁中ハ家ゆゝく衰微しゆ人ゝ
慶ゝ秀吉の御世ゆく繕ゝ為威ゝ家ゝ

くの御ものゝ云戦国にて誰心を付を奉る人をなり
ぬ間朝夕に御てゝ御てゝ様中く義を誤
てゝ御迹を不住して不叶事也秀吉御迹を慕
ゝ道を知ぬゝ様中の御為日本のため
御迹をゝ慕ゝ一旦の御法度ゝ
公家のとゝ御ふ度ゝ御ひ今天下の
御政道ゝ治ぬ宮殿の御様ゝゝ
ゝ実ゝ事物過ゝ時ゝ災変ゝ
御ゝ禁中ゝ霊物ゝ
禁中ゝ御位ゝ奉ゝ
様ゝ御神楽ゝ御神楽ゝ領ゝ節會御遊等
ゝ宮殿諸道具等ゝ質素ゝ
ゝゝゝ禁中ゝ正実ゝ
の憂ゝ
ゝゝ様ゝ公家ゝ
不ゝ
ゝゝ
ゝゝ人の多ゝ
禮ゝ
嬉樂ゝ
移ゝ

ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ成給ひ事月新こゝろ
いと家中かくのごとくなれば帝王をまつらはし
奉ふり王者ぬれば[illegible]くに益有事ハいか
への礼楽をあらためぞ信ぜあるなりあるべき
實たてまつるべく信じ[illegible]ぞ神統
わやうくれば[illegible]まさむ[illegible]秀吉ぬ[illegible]道の
御迹をうり物[illegible]ぞ[illegible]帝大樹を
[illegible]ぞ日本の國もあやうかるべ[illegible]神統
絶ぬ神國[illegible]戰國ぬ[illegible]人道の
くみ[illegible]ぞ人道ぬ礼楽なくハ禽獸ぬ近う
むぞ[illegible]ぞ合戰やむ時なぞ[illegible]
治世ぬ[illegible]道ぞ人心ぞ[illegible]ハ治利ぞ

りぞ[illegible]ぞ天地ぞ破れ
ぞ天運いまぞ年の會の終りぬ天道
至善なり妄好人のこゝ字を有道の人の[illegible]
ぬ[illegible]ぞ思ふぞ[illegible]

集義和書卷第八 終

集義和書卷第九

義論之二

一 心爰云我者とは夜寢られずとて飲食の味ひもなく諸ゝの病邪或は風邪よりおこりて入れば心術のつれなく成ぬる者は慮を省て夜寢られずとて疾病のもとと成ぬと思へども人方慮多くして精神を消しもつぱらなり天下何とか思ひ何とか慮らん義は淳ひ理は應をんのこと知者は無事なるを以て行ふものなり万事私なくして天を以てうまく一一如しとも思ひくめることも形なくやむこと能はずして慮とは我天と云ふ心なくして平人は私の形ひかれ時と移る形のうつりとなるこんとと是故は思慮多し

天下我よりあるこゝろなれば何とう形ひ何とう求めん
心ゆるすなるものは形なし聖人元史同じ死なり
天下とあるこんと云ふも命中庸換へるとうまいたる
中も重こゝろのいに我身なりいそいに義理とうしなひ
死して若と合くもろこゝゆ
命うも義を重 問浅悔の心切なる故よ精力
労しこゝろ有こゝろ悔て先非
没しこゝ有りしいく受用しの行人こゝや 云悔ハ西ゝ
者よりしくの道なりこゝもしく悔ゝこゝ
先非の病ある根なりこゝも我とひこゝ過失
の今ハ治こゝなりて心氣こゝ
こゝ治ハ治こゝ

境ハ治こゝ過失の根伏義こゝ
こゝ過ハ治こゝ精神こゝ
らて氣と云こゝ至寶こゝ保ハ
何こゝ治こゝ神靈寶こゝ
こゝ書こゝ國天下こゝ
こゝ是故こゝ君こゝ覺照こゝ
思こゝ思こゝ覺照こゝ
こゝ人こゝ我心こゝ善こゝ德こゝ
先非こゝ治こゝ改こゝ今こゝ
こゝ何の治こゝ
なこゝ治こゝ後心こゝ
一 心友問て云志の主本ハ何ごとう立行人こゝや 答云仁

我身よりの事なれ身てつさん不義とおくミ悪とゆ
ゆりの心よりあるなれ共ゆ慮とも礙うとも混よもも
も絡さんとゆうんと思ふとも志ろ人ゆ
出霊明天ど根こうも朽を絶ものも法の受用をもつこと
人ゆ我よりありなうし我抱ものもと向ゆよりの人ゆ志
の貫ものこうれ知うこうあるよもゆ立ゆいくこ更しゆ
へこうや 之三地の間よ己一人生てあうと思ふ人ゆ天を仰
こうこ神明を友うて見向ゆ人よりの心ゆ一人ゆ
ゆ是八内固して奪ものこうゆ和してこうしゆ
一心友同して之今の時ゆして憑とゆ遠を行ふ伏羲の
時のこうこ承ゆ知ゆ我ゆ放逸なゆ事ゆ賢来
ゆ是八威儀を慎しゆ心を用ものこうゆ心ゆ
こうゆ仕りゆやまりゆこうゆ 善を方ゆ
ゆんゆゆ身よゆ知ものこうゆ知ゆ慎ゆ
の信こ事のつこゆものこゆ心力ゆ慎ゆ威儀
病妻の人ゆ口こうゆ故こもつこゆ心力ゆ老年
ゆ寝付起ものこうゆ病者ゆ意
神ゆ乱ものこうゆ心力付ゆ慎ゆ
知ゆ悩ものゆ間ものこゆ人ゆ風ゆ
ゆ寝てゆ中ゆ死ものこゆ行ゆ慎ゆ
一ゆ己ゆ正ゆ身を修ものこゆ家を斉ゆ国を治ものに
ものこゆ滅を言ものこゆ貴厳心力強
くての勉ゆ遠ものゆ我心力表ての勉も亦不及
ものゆ滅を立て時義信ものこうゆ伏羲の

ばこれを教へ

一心友同て云禮い大なり亦しり始る人こに飲食の始れと以るなり　蓋云天高く地卑きこい礼の始なり無言の教なり男女あるこ人の門なり又夫君臣あるこ人のりこに性命の正しつくるものなりこ云ふ衆人の氣質に濁りこつるこのに其神靈のてこ〳〵こうとうて夫ひやと一飲食男女人の大欲あるこれ礼こ云ふ相爭ふり及人の知たりこを礼こ人こ固有の天理よりたこて教たまふ知よ飲食義ありてこめ時ありて食と且多こと濁りとあこ紙こ男女こ媒の言とこ云ふ婚姻の禮と為て後相交る且夫婦となりてこ賓主のこ〳〵礼別道あり先王こ人こ〳〵の德こ明らめ〳〵て〳〵治人且礼こ人こ固有の天眞感激誠辭きこれ能

一学者問て云即物窮其理こ云ふ事こ物こよつこて事こ物ここの道理こ云ふものこ必治ふこ意こ思ふ見あこりて格ふこのなり

一事物ここの道理こ窮め知こ云ふ儀こ云ふり其事こ行ふに物事事也事こ物の用ありて物事こ作ふり二ありこと人倫の物ありこ人倫の事ありこ人倫の物君臣父子夫婦兄弟朋友なり人倫五典十義なり人倫の物こ即こ人典十義の理こ云ふこ窮て必こ得身こ行ふこ格物致知こ云知に理なり今の理こ窮こ云書のこ云ふ文こ即て講明し或こ空虛こ儀論こ云れ物こ即て理こ窮ふこ文こ即て友こ云ふこ

ものなり人と仕うまつるに仕を捕ぶりいうて次仁を本とし
ていまを父子の親君臣の義夫婦の別長幼の序朋友の
信よりおのずから遇合を慶し不是と福ひまに成若て
捕ぶりのなりたる今の学問者いまだ道をもとめず人情
とを先とあくまで即物窮其理の実をもとめず
りの天下の事を物この理を窮博識多聞なりといふと
も何の益かあらん　問天下の物莫不有理唯於理有未窮
故其知有不盡也天下の物しかるべしとも偏り物
色うしとの説ならくくもいふ文理不分明ならく　去天
下の理は幸ならりのい斎家治国平天下なりこれ本末一
事ならく天の與ならず才知あり君も其質の好ならず
しかひて真職と命じ治ひ治もうんうの天を治く須

りのなり身と仕うまつるよりくくと貴ぶよりゆるやうよ和
くく行鳴らくくと選て数と掌らしめ治ふ見年ひむし
淳和院特学院乃師あらうこと
ら山川池理よりうる才あり
山川池澤とそうこと
人と農事と掌らしめ治ふ物の生長乃色よりこと紀
罰とふこと
こと律呂の理よ明らかなるくくと
の道理分明ありて直言ならくくと諫議大夫と進て忠を
盡し退て過と補ひ天下政道と損益と知くくと納言
らして君言とおし納しむ法陽乃神乃理よ通しくくと時変
よ達ならくくと冢宰らして百官と總主らしむ天下乃事
ならし理ハ窮なし右ハ只大事の二三とあるなり一人せ

物のうつるに力と合と謀とあり先て天下の知と用て天下の事と盡さんと其不知と不知とい不知と知とい知とる事と不知もまたもの人の知とさしやうや況と意事よ遠とれるを遠とせと功成て次耳目口鼻の官其用と盡して一心の如く帰もとるべき天下生地を育用と盡して月のうつるがごとく時のゆくがごとく行うるうちに其物とるとに至て一なり又天下のまことに出るて心の感とる而身の交くる而物その所に疑ひあるまじとも正心修身乃緒餘土苴なれば其の人を言とて明辯とくして天下の理と盡とこの人を天とする所なもなし未見後と言に所あるまじ事よあるべし

一学文問院嗣宗の口より人の過失と論とそうせとよぬ人なり大舜ゆゑ事あり善とんとれ人の悪とうとしも善とあ者治人の悪治人の悪とうとうとせ善とよ人の善とゆるし治人いなりもうに盡子ようとりのひて楊墨とあ者治人の法なりとそうの凡人とあ悪とうとして善と揚治よ楊墨ゆ見不とこと及ありとい人凡人とあ者出ようなり何とも善とぬして其悪とうとうこ出やこ性ハ聖凡一称うれも命よ分量ありようとう分量と知く命よとうとうの聖人の法なり天命よ天吏の法なれ法いなく聽しとく拙くて政嗣宗うの人の己失といとうとうとし其に公術明うまして金れ練得て まして つうく玉精の正えうう ようく公思乃森とう而天理よ事ようの人欲の出るうしん

是と聖人とのみとも可なり聖人の聖人たる骨髄（コツズイ）
よりあるいたり天質の分量廣くこゝろのもの天吏たるの天
命あり邪ぶとゝろ善悪を明らかにするは或は筆
紙とり或は言論よりとゝろあり小人の好て人の過を
ひ益なくしてこれ是非と論ずるの凡心よりおこるといへども
き世と称ゝあるこゝろなわたり孟子の時いまこゝ
堯の聖主なくして下に舜の神徳なきこゝ命と称の義也

一 蘧友問貴老天下の名称ありて道学ありといへ
て儒佛ありて老老ありて国家ありて老老
ゝ人より尊問ずしてのこゝ人より教ずるとる
うと何ぞ神道者俗儒欲道者筆道ゝ公家ゝ武を拓
ゝ世或は世ゝ行て師ゝ学ゝ人ゝ行ゝ道徳乃大中ゝ

ゝ物ゝ窮ゝ究ゝ所ゝ有ゝ云愚
う名ゝ虚なり何ぞ虚名とゝて物ゝ
ゝ人の師ゝ法ゝ人ゝ行ゝ人ゝ一文ゝ五文の師ゝ人ゝ
愚ゝ記ゝ虚名ゝ居ゝ人の師ゝ人ゝ
ゝ行ゝ師ゝ師ゝ撫ゝ学ゝ人ゝ学ゝ人ゝ
みゝ居ゝ益（エキ）ゝ行ゝ言ゝ道徳ゝ人ゝ
を師ゝ時ゝ虚中ゝ学ゝ言ゝ詩ゝ
ひゝ学ゝ時ゝ温恭（ランキョウ）自虚（ジキョ）の真ゝ失ゝ愚ゝ
学ゝ未熟（ミジュク）ゝ儒（ジュ）ゝ儒ゝ
儒佛筆ゝ人ゝ学ゝ人ゝ学ゝ人ゝ
ゝ人ゝ人ゝ人ゝ知ゝ海ゝ自満ゝ人ゝ
師ゝ学ゝ学ゝ人ゝ学ゝ人ゝ学ゝ

のこゝろ一古人ゆゑなくこうそれ千金の求衣(ソクイモ)を狐(コ)の腋よ
あつまりて大廈(カ)の材を一丘(ク)に求めあつまりて太平の功八人
の略(ハカリコト)よりあつまりて古人云天下とあり人の天下の治事佐
物の我有(ミヲ)あるをいたるも天下の人乃知の我拙る
れるをもつてしてこれ同しく紙ぬをもつて人の知と用ひさ
るを古今いやしとせるあるゝ吏耳目口鼻手足乃能
と異なる事なるものゝ心なり天下これ我(ニト)異なるを
乃知るなれど知るをよく賢知とあるを才能と用て治国平
天下とするを明君良相の法なり万物生成無量なれ紙
神ゝあり物ゝ事となるものゝ天なり聖人の聖人ゆゑ
而の能事いなくあり物ゝて大成をなるゝ古今すなわち天下あり
ものゝ人なれば道いなくしてなるゝ同し
なれて人の知と用よりあり天下の知と先立るものゝ天下
の知よ神ゝりこう知と先立るものゝ人のトなるこゝ紙辨
ぬゝ

心友同文いまこゝ為ゝるかよ青ハ義質ゝ人ゝを聖学記
入給ゝるもこゝと第作ものゝ四書ゝ経ゝそよ法ゝそこれもよ
を淡ゝるこゝるものゝ明なる書を墨なるこゝ辨(ヨルヒ)
事をもれて聰明(ソウメイ)ゝもゝ明ゝるこゝやゝ作ゝん　云今ハ説よ面ゝ
と作て教人の古よゝ講明をこゝるものゝ上よ近年
ゝ宋朝明代書法ゝて明なる時ゝ記よ生れ知ゝ学せと
して知ゝるこゝとゝ記ゝ伝ゝよりゝ唐ゝ代ゝ其
国の書なるこゝ文ゝ学も達者なるゝよ孔孟の後千歳不
伝して宋朝ゝよりて世ゝ出ゝるこゝ穀ハ種の

春のうのかれと熟せるに美禅門もちろんいはゆる
し聖人の道学も熟をたしかに佛学みのもちろんしこ
とかなり聖学の日中めるく東をてとかれ時分八佛
学のさんかなまた日中のこと

一心友問大学の光后のたいつまれ所もを作るや　曰正心也
仏と正をんと思ひし意と誠ふと誠意の工夫八致知格物や
國天下と平治をんと思ひし家と齊一家齊て天下平也
家とうく治く国をんとうとのて天下とと其齊家を
本を修るの為の為仏なり一家仏正してを齊ず国
治ず天下平らなり　問大学工夫の實地いつまの所を
曰誠意なり是以傳の初に誠意と首とと致知格物八誠
意の工夫なり何を別に格物のあるんや所謂九二字と

以て分明なるまなり

一心友問孔子絜矩毋意とあるよ誠意と云八何をや
曰毋意とと云八聖人のこころの意八不学修身の念なり思慮
雑慮とも云聖人よ八初よりかしこくもくに意をくん
とせん異学の流となるんまさに仏教空なりたるに空
と観とるる圖上よ圖を按もること仏教意かしこくに
真なる本のこくのんとせんを非なり誠よもるハ意とをく
もるの工夫なり誠よする時をものつつ毋意よ必要なり
意会の不学修身して自欺ものハ仏の霊基なりもそ
神のてこと法不あ出へなりもるくとんく其の霊照不昧の
全体とてこと空くと仏出れ空くよ明るよもへうる法
不学修身の会とうとうとて生ずる穢とうとて善

悪とりよ公鏡よりくめを空のゆ祈とりて其
功をやうるれた瘧の同日ゆくく水のおくとめるせた
ゆうくくくれを氣質変化の朝ゆくく天下ゆ事物
よとりて吾公の明不昏と覺て實くよ功と同くく天
下國家も物也又條と物なりて天下の事物よりて我公
のようくく不あるゆ知の不昏なりゆ知義知意の良知あ
ともも善と知るくくを悪と知るくくを不実ゆ真知よあ
をゆ其知良知よあくくく

さてかのきうしゅうの学のてそるさうてしたるやうなるもてもせいがくのはしめてへさのくしくしくし

一心友問ふ今の時にして先王の道を用ひ忠質文質
いかんと用ひ行はんにてやいかん　云愚うちうちうるはしなり賢
君ところ治ゝ忠を用ひ行はんにてさう　問今は文遍ぬ忠
質よりも文をもひ行り　云今は美つとしいふりのみて文をわ
らと質と亦文の下地なりもの〳〵忠は滅のこなり滅去
〳〵奢と飾とは多へ多へ飾なり世ゝ除て故質よりゆゝし
世代へて文あ〳〵つまんう　問賢君ところ治ゝ善悪邪正の
あ〳〵なるを改め治んへきう　云聖君よりて改め治ん
うゝ人情は應〳〵時宜は改て改め治ん〳〵初て大道をお
こなんと思ふ法を先王とうゝを伏犧氏を如ぬりゝ
衣裳ゝ〳〵宮殿なく禮度ふ節ゝ其神聖ゝ
麻あ〳〵と

一心友問ふ云聖賢も又静坐ありや　答て云静坐
あり孔子閑居し治ん時は中〳〵如ゝ天〳〵如ゝ公主ゝ
時は恭と敬とは忠信とゝ五ゝ意と滅は治ゝ云
人欲の妄は問思雜念とは滅なり其意と滅はゝ時
忠信主と故て天理流行と空〳〵如ゝ故は呼吸の息ゝ
多ゝ故ゝ心とは和ゝ故は静坐
の和りやゝ有ゝ時は息喉ゝ〳〵滅ゝ時は
腑の和ゝ公主ゝの術も亦ゝ有ゝ足故は生
故ゝ呼吸の息と故ゝ故ゝ有ゝ足ゝ故ゝ立ゝ
らと精神内ゝ和ゝ乳無脈流ゝ初ゝ
一朋友問て云西ゝ〳〵ゝ多ゝ故ゝ〳〵ゝ
自然は自清ゝ〳〵清ゝ〳〵ゝ　答云ゝ世ゝの西ゝ

々神の納受し給へる事なれば其ことなん
善悪はいふまでもなく民の心根に感じて雨降と給ふ
あるうらみなくとも国の米ともなりぬさて其時
若年の費あけてうたへかこちあるのこる人日てりと
なして雨こひとりけるに三條の大明神へ日てりに雨こひ
とりとなをれば三十余郷乃入用八金二千あまりなる
ことに物語とうけぬ伝聞あり年々の若労をとりこころのを
すくはんとて日てりに雨こひよりて治人たりしのあとをあり
うるこゝに絶ことを極り世をむさぼりこれを
勝天よりひてりのいとなみ伝へそのまゝ伝へうるめし
をうるまかさこゝろかんひ〻〻時と行ひ雨と行ふこと
たゝのこゝろ参河代官国郡代官の任なりこゝ今八百性なり
ぬとうりまれて雨と行ふこのこゝ知ら時と知ら数と
いこゝに長雨して田畠代作物くさりぬとこゝもいたるま
日とたゝかなり向明者ありてあこひまいめ何あるむ

云雨こひして雨降ゝ道理あるものハ音樂なくして
今一天平ハ大ハ日てりと諸寺諸社のいのりと三〻
て雨ふりとも対数宝ハ樂ハ行乃精神をとゝく
大言とゝ〻人年の十二月ハ配して十二律と有り四時土
用の調あり天地神明ハ感ゝるゝ四つくもゝやうなり
盤渉調ハ冬のこゝ人ゝて水の調なり法調ハ吹ゝて
いゝ池の水乳とりあゝ人ゝ三月ゝもくゝてこゝ行ゝる
時ハの琴とゝるゝとゝも大乳の人ゝるゝとゝられてあ乳
生ゝゝゝ行ゝて盤渉調の青海波と双調ハゝて奏

せよ双調笛のこゑ〳〵かりの末氣はまた未火の毋なり水
のこゑかり水火を尅とれば未のあまはみなり毋なり木は
あまどつて風を火氣とのつゝ吹ゝ雨降〳〵大原
野の神前にて樂と奏とし毋せありてこゝにあり
雨ふる 回ふ〳〵神前にあるゝとゝ吹くゝて也
しゝるんう 云ゝ〳〵とられと天よりもむる神なくて
ゝぬ〳〵又双調の音海波に吹ゝ前よりこゝ〳〵ふることいつてられと
いつまゝゝもわゝ雨ふひよ風ひ行よ理よりあてゝ海ゝ
事なり中夜にても雨ふひ〳〵樂と用ゝ
一心夜ふと一儀(ボク)よ持せく野とふりるに遂ね若ゝく云史武
士の別器とふり取ゝ〳〵ふりるよ何ゝ〳〵ふ行ゝふ
やゝ儀を草履(ザウリ)とゝ持ふるよりゝ矢ふりるゝ
ゝなり武具ふふ矢ふりるよりゝ矢ふりるゝ
ふゝ〳〵ふるゝ直ふ行ゝとゝ古ふ大將軍ふふと
人ふふ〳〵せ行ふゝ公家の大將中出將も武官ふふ矢
ゝ弓とゝふふ行ふて其ふゝ矢的前等の同相ゝ
しの立ゝふふ射手ふ人も山野ふて行ふ射ふ
附ゝゝふふふ

皆武士、立ちはりさかよひつゝ、誰か嘯かん
貴の弁慶なとゝいひ物ゐくゝ武勇ゐ長けあるゝ
つゝ。日弁慶ゐうとゝ、ぬゝかあゝ、ゐ物ゐる
かりの武士ゐるゝ、武義ゐよハ一遍ゐ、ゐ得ゐ
事とゝ、今ハ世とゐ武編ゐ、ゐ、ゐ思ハ
ゐ、ゐ理運の事ゐ、ゐ、ゐ武士の野人といふの
ゐ、ゐ、ゐ、

[illegible]時義信あり弓矢とるべしの
[illegible]ふ[illegible]のごとくにて本廢[illegible]
[illegible]出さるるとあるいしもうち矢と紙
[illegible]なるべきことうち矢
八幡太神宮[illegible]神[illegible]
武神の舍なりそ信の誠明うるしい今の時不なりと
[illegible]ぬとあるべし世界い我乃
誠[illegible]我世界とはなるものなり
一心友同て云秀吉公を[illegible]て天下をやうやうよ入
[illegible]いい　答て云秀吉公をとうめれ[illegible]
らさるなり濃州宮留馬の城を大澤次郎左衛門尉
と信長公の味方[illegible]信長公大澤を剛
[illegible]
[illegible]
[illegible]

道を知らざるなり天下
太平なれども情の公なるもの且人情のあらはれ
思ふべきなり玄宗も初は竟舜の
治をもとめんと思ひ給へて若経の序をも書給ひ
ありしかども後は情欲に耽り遂に是れより聖人
を人心惑危とのたまひけり

一 学者問小野聖廟と聖賢は怨怒の公々
なるべし孔子の恕并に崇とするは大乱甚
しき執着なりと云人あり答へて神々わうの光り
なり 曰あるべし世の傳ふるやうは落公の怨霊なる
事崇とのたまひしなるべし配所の詩に云去年今
夜侍清涼秋思詩篇獨斷腸恩賜御衣今在此捧持
毎日拝餘香 此詩を吟じ給へば忠臣なりし感慨多
くして其人と見なすべし 怨怒の公なり
もとも若子の怨忠臣の怨と云ふべきなり平人の不知
不世小和 詩を若子の怨なり若子のなるべし
ちなみに若子ありと古人をいひ落公の怨も忠臣の
怨あるべし忠臣なるべしれぬ公あり崇となり崇と
なりたまひしと云ふべし菅公の霊よわるべしと天乃其忠臣
の謀と感じ給ひてこれを為のなり周公の忠とあり
いさんとて大風吹し類なり 向嶽山よりして文学の乃
師なりしかとものこと給へるなり学問を怨て柏
櫚と口を含み吐き給ひ給ひ燒わりて妻子燒うり其
書を後世にのこすべきなり給へ

あるまゝ紀と共に作り云ふ空海と守敏との古事
の數なり空海と守敏と威勢と爭ひて守敏天下の龍
神を摘しとゝなる水龍の門よりとゝめ墨を太旱を
しに空海北天皇居鞍地の龍神獨守敏のもとゝくだりて
と語りて雨ふらせとのゝしるこゝひなり支長雨の氣
化とゝなる雨なり空に月の氣化の雨ふれなり夕立とゝ
因島草木と云ふ雲雨と共に郡とゝ村とゝ山澤氣と通して
雲雨と共に郡とゝ村とゝ山神の氣なり
なるゝなり誘雨なるの義なるゝなるゝなり
是とゝなるゝ雨の義とゝなるゝ雨なるゝ
龍のゝなるゝ思ふゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]他の信[illegible]事を
知へし幻術といひて水を[illegible]事[illegible]の如き[illegible]人の
問よみとる事[illegible]事[illegible]の水[illegible]
の濁る水と舟[illegible]事[illegible]
事なりとされて空海を正法と奇特[illegible]といひて正法と
を道理なりと理[illegible]事[illegible]邪法なりとおも
[illegible]水のあとをうてゆくみくもりなしとて[illegible]
[illegible]の事ゆへ[illegible]天のいかりをなす雷の
甚しき[illegible]花菅公[illegible]恐山の落[illegible]
[illegible]天神の御手跡にて仏経世
[illegible]仏[illegible]聖廟[illegible]
[illegible]聖[illegible]
[illegible]物[illegible]人の
業とみる聖[illegible]
の道[illegible]
[illegible]聖廟[illegible]
書の[illegible]菅公[illegible]聰明[illegible]
[illegible]天神[illegible]空海の[illegible]
[illegible]一[illegible]
今の[illegible]
[illegible]

一[illegible]衣服[illegible]義服[illegible]
[illegible]恥[illegible]
[illegible]貧[illegible]

とはいふとも備浪なるものは武士なり武士は
生まれつき男氣なり武士は今は勝手なり紀
も不自由なれば武士は備浪なるべきなり
羽織と羽織とは仮の物なり物を変じて換なり
略のかりなれば用なきものなり古今風俗のうつり変ぜ
今備浪なるべきは益多し
友は有用なるべきも備浪なるべし出着をこうかへ
なるべし家有なるべし成べきなり
なるべきを換して用ること
換なるべし備浪なる
なれば名付なくしてもあるべし世俗なりとて
なれば名付なくしてもあるべし出家
備浪なるべきあり出家
なるべし備浪なるべし
百姓の飢寒をもとくいとし親類知音のなかめをも是
ことに無用なるべし物とは人世換
なるべし不仁なるものは礼義のなかめ
なるべし備浪なるべし
人のをもうべきことは右の備浪
なるべきなるべし
なるべし礼儀のつとめ
も退屈して年来のなかめ
備浪出来なる備浪
仏番なるべし

世中よりこうもりくゝ成行ゆくなるべし　射こゝ云
この初よりの勇とそるかりうた勇力の人なくして世俗
非道のそもりよりなる事にして獨立しうこと仁善とうく
なるべくなくこれのみなり善の柿山伏の狂言とはかり
嗚つゝ理なるけまてもくなるうんといこしてるゝ成つゝ極
うけまてもくんとくこしてゝ成只人のりめそもりよ
のゝ心ありて定見なくなる如此
一心友同業花六藝と解して御ゝ馬術なりとゝ弦
尊とそもゝ数あり御ゝ車御ゝ馬術なり日本ゝ業馬
の術よりゝとゝ云ふ　云物ゝの人ゝとも御の車法
ゝ事と不知ゝ故ゝ云ふ時ゝ御ゝ
業馬ゝ出ゝ上易經ゝ
術の始ゝ業馬ゝ車ゝ後世文備ゝ服牛ゝ業馬とゝ
後ゝ五湖乱華ゝ東惟知鞍馬為便利雖萬
乘之尊猶執鞭上馬とゝ云ふ時ゝ今ゝ業馬なり物必盛
衰ゝ車御ゝ盛なる時の法なり古人乘車ゝ中不内顧
不親指不遠視行則鳴環佩在車則聞和鸞式則視
馬尾自然有箇君子大人氣象とゝ云ふ
ゝ君子ゝ云ふ時ゝ此法ゝ
ゝ聖人ゝ
野ゝ耕ゝ傳説傅説ゝ
物ゝ物ゝ質素なる時ゝ盛なる時ゝ文備なる時ゝ衰ゝ及
て事略ゝ始ゝ衰ゝ其事業各別なる物盛なる
なる時ゝ始ゝ近ゝ

車戦の法法世儀しうつ上古は服牛乗馬といふ
所よ法るものなり初よ今は武芸といふ時は御方
乗るなり日中あく義経義貞正成その馬戦を
為ず上代の車戦ならず車戦は上ほ乗上利
あり中野をして俄なる時は城郭もなく陣屋
なく敵なり下まるれく騎馬よりまつ日本は戦上
まなけ上は勝利あり下まよて八なりうしの如ち道
代なりうしう敵軍なれなり馬軍なれなり義経を
折物の達者つよるは上まうと十二人とくつて前後た
右よ立て敵方は敵とうけうるひ者うれとうで事とな
きり義貞正成の上と学て義貞千六人正成は三千二人
ありうしとなり残る和は兵も相行ならう達ならう二
将なよ敵千の敵よりけるひ中とうり多なり正成
よへく一ゆる後金くうり源平は戦よ平家方うり
悪七兵衛景清越中は次郎は兵衛ありしは二人者は千乃
右勇力は兵二十一騎ありて未ア所と聞く生しうと熊谷
みづうし紅馬よりて達者は荷はうるうへうれくを合て
ア上しあうつうて皆あてあるうれん事を恐まて
なり日本の武道は盛衰あり今いかへよ知ず
一心友向至理と書しへうもうの書なれ世人うく出行
及ものあるへ人は見よあうもとうれうるの書を漢字は文
よるうとせう唐の書ようこれうるまうるうへのううあり俗名書と道徳を
作ものいるる書ありは紙とうれうりとそもうろう

なる書にもいにしへの思ひのこゝろ若しそれ道を
聲をもて奥をみてとねをり思ふに及ばず思ひ言に
のこゝろ言に書に畫に如かず漢字の代文章にあり
ては深理は和字の代假名書にあり云へども
其の儒聖經賢傳は君子の註釋なるを知ひ知ると和
みて經傳と見時は經傳は君子の書なるべかり
經傳の文乃ち深きとりてあるひを理と見るのみ
うりて心と共に文の奥義も口耳のそこなりて爾家
治國の用とのみ為るべし是正心脩身の實なり
あるべきなり假名書の直に理と発明して人心の酒
とひと解人情時勢に通して心思と内に向ては爾家
治国の用に及ばんに対ては聖經の文理情に向て心
と知て法聖經と見は聖經の文理情に向て心
法始くはしく真に聖人にまさるべきの餘情あり
聖經にあるべきなれども賢傳といへども及ばず假名書
の奥義と迷ひ文とのみことをもはしむの義せ
中代くと略してあるべきなるべしは和の云ふ
を此例多し和字の書は道理と迷へる理とあり
べきなり和字三十一字の源音は孫音にとゝめら
ざる音國の風代なりあるべきの假名書
も此心とはなるべんにはいまゝにあるべき物なり
漢書とは深くあるべき見和書とはあるべきはひて見和の漢
文にはあるべきなるべし和書のあるべきを心むかしくあるべきは
の人といへる經傳の文理とはあるべきひく道とあるべき

着多し書中其のくむところ仏法より益多し又真を悦
て俗身其のとるべき人多し法より為て仏法と不知人
多し如此のひの人乃ち書漢文和書も見め
ありしかしひ和のの書よりして含む和歌多し云
も徳と知く文よりも仏と道と見く法より為と云而
實学する人信してこの人なる実より勤へ天下
古今の文学をとる人あきくうとこの人を実とす
仏法人れるり仏に実るも仏法と不知歌より通学の日用
より後ること事久し和書よりもこの人生日用の受用
益あり前家治国の情より後あるべきなる仏法
とおく後経傳と見て書られ我心の注解にとりて出る后
ところ紙多し

一心友問柳下恵の和みも清ありや 答云清あり天
質其のまとをしてるを和よりあり無作法不行儀の中み
居て汝を汚と世よ我と我と世人の安をうく我をきら
ひや是遜よりとれを猶ならの聖なり清めをもうる和
りの 問云倫夷叔斉みも和ありや 云和あり
あり天質清より多のく無欲我ありて人と事こるさ
和よりあるをや孟子より悪とあくむの心とおとをいる而と
あくく見く倫夷と清より過よる人の後より孟子の表心
根の清と察しさいあてひるり書れ行改よる深あり
一心友問天下国家事たること人事あ
ありて治むべき有こと人世に居事ありいれ是と
無為とあり 答云世人鳥の人次第なると無為

ら也ならず論ずる時は理りあるを仮りて馬と使ふの
いへたりへとなるよりの公共なるを人の理よりなりて動
き私意とよりへさるは是無なるなり事の多少動静よ
りつゝ出く労せずして用居るを
無るよりあるを隠居(インキョ)して論ずるとなるを人を時よ
りて出く世間と落るを無るなり是を名利とを
して私意に起るのみなり馬のる屋と出る時を書を
まひとして不出みる屋へ引むを時をとるを移くるへ
るを是をとなせるとなるを無るなりあるを人を天理乃
自然よりをさりなく或を苦しを故を体をを同よ私心と
人を為をなるなり君をる人乃時不信なりをなるなく世
事をとりいるを人を不国部落をを為をなく

治をを

一心友問議論講明恵親切なり道理を明をれむを
をを心術躬行を名利乃交りを為を何を也
答を心法を同をのあるを法を別をいるを
心のむるを異なり心問よむを時を一をあり
てを精微を尽をを心を有りの向りを千言万語
の親切なる懇賜をあるを説話のをあり
て精微を入をあるを心を如何を心なり何を名
利をまぬるを人や　問心いを
を為を也をを一者を心術を問よむを人を他乃
学をを心を見て分明なるを問を向を人を学を時を
学を心を自然を問りむを人を学を時を学

たゞ自然よりおこるひとの親切の心術なるべかりむつかしきとゝ和是意をもつて意と為す言葉の及ぶ所

ありがたし

集義和書卷第十

義論之三

一心友欲て云後世乃人行道にくらむ　答云て是方ハ小きよりまれなるうつ聖神の乃德を学ひて異端かたちを死生一貫貧富一致ハ程をきわめ天地萬物をこかひおきし事ハ人生乃義何事ぞ小志ハ大ハ物ハ天地を又一大虛なり我小をのゝくて地位一萬物云月せわ心善ハ悪なくして悪なくハこの世よ生まれて光霊の民也万物一体乃情ハ人のうゑ忘とおもひてをゝ忘をもつてもつゝなくハ此也命ハ不ル也

一舊友問曰ハ武国なりとて仁ハ何ぞ云ハ仁國なりとハ武ありて仁者ハ必を勇ありの理ハ

うなるすやふ狹ハ勇國也極也不仁ハ之禽獸ハ
極一勇者ハ必一仁を仁者ハ必一勇を仁者ハ必一
夫仁ハ人也心の德なり義愛惻隱人の情なり欲
ハ者ハ人のなり也仁ハ其心方物よりのもとこれ心
なり仁ハ萬物と同体を一体とするなり欲なり故
ハ公欲なり欲ハ私欲なり仁者ハ樂ハ山也仁ハ
者ハ水也知者の樂ハ水なり知者の心をもつぶるゝ水乃
ち深ふしてきよく神化のはたらき
と云知者ハ變ずるなり水ハ流水の物なり內的
ふ水ハ愚なり大知ハ愚なり愚ハ泥土乃あ
ものなり知者ハ中と仁勇者ハ仁者ハ仁者ハ
至なり勇ハ義乃德なり仁者ハ
のちなり

一心友同むし濁よ黃老の道を好て清靜ハ化行ハ
たるところハ異端を亦用ふ益あるか　答云陽
を和調するとハ實よ儉節よあり孔子曰ハ物失ふ者
もとなり也愚をもつ黃老の學者なり清靜ハ
欲をくるゝ世ハ稱ふなり業行をもつハ資質
人乃一端なり老子云學道日損なり道ハ天理なり學
ハ習て明よすゝ乃義なり天理よもとゝ習て人倫を
ゝふもとゝ時もを人欲日に損ぶくゝを學ふ者ハ大事化
して小事ハなるを小事ハ無なるを事ハ無なるを

帰り奢ハ自ら倹ハ帰ると雖ども人ハ日換すれ義也横
盡しの至ハ心大虚と成て一物不是なしと思ふ事
なくすることを能く思ふこと能ハ文理なり紙思ふ事能く
いふなを事ハ礼儀なりをするなを上ハ人
欲いふこと云ふるなを人ハ妄念なり
是ハ礼儀なたのひく驕奢なり　同倹約ハ一素いう
行ふ陰陽を調和すハ小ハ一ハ陰陽調和せハ風
雨を民乃孤よ上ハ云倹約ハ無欲なを上
無欲なを人事をたのむ者ハ財をたつ
びを財をつひとしびさを人ハ財をつ天下に
散ぶ民をたからをせたのちこせを人ハ相年を
ぶとなるを水の田を耕を食を五穀乃を事を

事して水火乃ごとく人ハ不仁の者ハ
とを盗ひ礼無なる時ハ刑政用ふ不ハ衣裳を
天下治まるを礼ハ禮樂乃質也家に初て学校の政孝
弟忠信の教をなを倹約ハ是を盡せる
一朋友曰吾ハ人文学を好めり常ハ武士乃ごとく小剛毅
なを文書乃ことを事を静なる体なを学者ハ
奇特なるハ行なを　答云剛毅なを静なるハ
事なを文書乃ことを事なを文書乃ことを事なを
云ふ史傷の古家なを行ふ武士ハ
川の真ハ先ハ孔子を書を乃を事を
武士大夫なを学ハ文武ハ
得ハ文乃をハすを武義ハ不得手なるハ

らい其不仕事もそらひと天性の生付なれい不義なりと
云家あい筋なくてハ学者ハ右筆又ハ
武家ばかりを武芸にいらさう奉公ばかりを其中を撰
ぶの板ハ農工商よりなをこと
う称ばかりして不行平なるひの位ハ最もっぱら一向して先
さうハ其良ばかりをこと
みのく其つとく先なる者をすべしといむかしたる天性
我分ほどの不身ばかりをくしてきことなるを紙反よりをんがら
なる人の足いりを此人をあけく立ばかりを勇力ばかり
て武芸ハ達し武士の中内
陪ばかりをこと
乃上よりとのかたきを人也道を好と徳とをきいてを
こたるかとなり無事ばかりを人なりを

一心友同敬を不実ばかりすべ也何のかも多し云

何心をなりを人心ハ常也敬といハ主
意なり常ハ心ハあるを戒持するにかりを敬ハ心の徳也
復更を離色ばかりを主意ハ
いむかとハ外ハ向て人乃見聞するハ異なるを人ハ君子と
さるを離なると云則ち夫也君子ハ主意をするを内心ハ
神明を師友なると人乃見聞及ばざる地一念獨知のをおひて
戒懼をを慎獨と云己ハ心ハ恥ばかりを慎ば
るをしハ人ばかりの不善を不義をなるを人や義也なを
遁をく好悪乃欲なを何ハ天理常ハ存を敬をを大なるへ
ばかりを敬ハ乃を外ハ内ハ

多くあるなり

一心友同夫仁者己欲立而立人己欲達而達人とハ何こゝのことゝや
云仁者ハ己れのみ邪凡夫の立身と云ハ己一人の為にして人の害の
ることゝ為せ次己欲心を達せるの為己あるを事を知らず人あ
ることゝ云へり　ことゝこの友ハ事を得て云ふ氏滅を失へり君子ハ百
担一件道義一貫の身を立道を達せんとなれよりて志を得時ハ
為て天下をとるべき時ハ不違志を得ざる時ハ獨其身を
ゝくして独善とゝ人を立人を達せるの道德淳純として備
まりうまく國天下の困窮をすくはんとハ君子生れ国窮すして達せ
ざるなり　問能近取譬とハ何　曰中庸曰子曰道不遠人人
之為道而遠人不可以為道詩曰伐柯伐柯其則不遠執柯以伐
柯睨而視之猶以為遠故君子以人治人改而止忠恕違道不遠施諸己而
不願亦勿施於人とあるを能近く譬ふるとゝ為ることゝ
則ち持ふる柄を手本とすることゝ云ふ　能近取譬近く譬ふ
人作りて二物なるを云ハ遠し　忠恕乃道ふるとゝも近き
ことあり人を為ることゝ為ることゝ二人のやうなることゝ心乃天理ハ
天下一貫なり己れ欲せざる所の義理ハ人も好む悪む所の不義
ハ人も厭むなり故に中心を忠と云ふ中ハ天下の大本也天理
自然の真と中と云ふ心を恕と云ふ天理自然乃真心乃如く
要用おく違ハざるを云ふ故に天理一源の真と推人ゝ乃ことゝ時
中国本朝といへども違ことなく後世に習心私心私欲と云て交
と記ハ先聖といへども墻を隔くれ義のうさ山人を能近く譬を
取て忠恕の道と受用とる時ハ仁の方是より切なるハなし
一心友同攻乎異端斯害也已孔聖の時いまだ道家佛家の

学者なり何をか異端とのたまつるや　答云六藝を専異端なり藝はあるを附はなり一藝を専とする時は害を一藝と以て道の全きを知らず道徳を捨てゝ藝を遊ぶ者は君子なりと大道を志して藝を捨て道と云ん者は聖賢傳受の心法を捨て邪道に外ならず極とて云ん者を迂術者以小道自離といつて外なむ空とて心理を入て一端なり合同せずと云ふ故に道は一端なり人の義者にて可なり士君子は事に行ふ害行ふと文学を選して経傳の上を学ぶ者も亦同じ夫大道五典十義を以て心を正し身を修め五常の人倫の外に出ることなし仏者は五倫を離れ道者は五常を捨て出ることなし道は一つなれども異端なり孔孟以後の儒者と云ふ者も異端多し五常の外に出ることなし

一心友問君子矢をしうみを人をとうんといつて論ずる詩はうみの色といつるは何いく　答云天をとうみを人をもとめるものは富貴貧賤悦楽憂患をへく人生れ順逆みな命なり己に知らずして是なる真位を素して外に願ふ人はうかつうく獨を慎むべきなり詩はうみの色と和光同塵の心を以て興ちうへ出るがあるべし人を友なるべし禽獣木石と友たるべうみとうんすとく見ずとて心をたけしくすべし和を失て愛敬の徳を

ちく詩を作り奇をてらむうむへきこと紙ちり風をへ
きこと紙風をこと言葉ふまくいへも半かすくく和をこと
こころをこころの詩寄よのかきへつ者罪なくきく者戒む
ふよんめきるれ徳ありと高の獨立乃地位ありきとも
めく俗と同しくを清浄明白乃心思を保らけく世と
たと進退をとうむきたいらもうむきたらん
ぎなきを子を愛しへいはらへの言葉をとうし
先を奥よりちへかく詩を作り奇をよむと云へ人の
うちみとなる意温和れ乃へたふうむふと親と
ちを作てなとにのうちを心へ神ひ不測也ふとうれて
変化を自然の妙ちをと

一明友同て云江西れ学者感應篇をよみ又誦経乃威儀を
勤めうをとうく世人先を第よ者ほりの同しとなるか
答云ふしとりの細工れ志ふらひをつをそこちひてれく
馬の系賀を慶ふ為ふうふし聖賢傳受の心法れ作ふ
くて中江氏初くさふくを心を称ふく試ら先を心法れ受
用ふたりわるきとくなりの取て愛用して先をきやせう
ふうりのと全くよりそれてもをを先と志れとく
なる而ふふへ誦経乃威儀なるん習の過悪をこゆう
ふ記しうをの感應篇をわ実をいきたうくを用ら先
うを紙捻して一日れ過をむとび善を先たうをありを皆細
工初くく事へなりを先へ志をうを先へ悔へうれを先を
人倫よりもく学乃事わふへうれ志へ殊勝なをとうを異端れ
流よりふ反ふ我へ不用なを反ふ三経乃初ふ威儀をを先

をきつると多り聖賢の神を祭祀するも義わり紀ら

一心を向敬鬼神而遠之とハ何と云あるとそ　答曰鬼神の德を
あらはし敬礼乃心身の潔斎心乃絶てなくとのちらさ紙
つるゆうるとハかなとも其上神ハ非礼をうけ義礼を備て祭祀
まく〻正直の心真實ハ情をもて浅薄ハ心ハ遠
ざかるゆへ人鬼神ハ鬼神ハ鬼神ハ敬乃ゆへ
つら遠さかるゆへ遠さるゆへ云て何よりハさ為ゆへ人ハ
人鬼神乃名を知ら知る德を不知是ハ身の盛服心ハ潔斎
をもて乃をもてなるとハ近付るものなり　問其鬼ハ
あらはして祭るハ諂ふるとハ何といふとそ　云義を
もてとさるに勸請乃宮社多き皆其鬼ハあらはるなり真
實正直の心より神明の德と云ひとハ奉るとそいふく欲心偽

坊ハ者とも神明の奇怪をいふ紙取たてる示ハ
て福を祈るハ皆諂ふ也　問度人ハ其親ならぬハ奉らぬとハ
伊勢多宮官ハ其外至尊ハ神ハ系ハ天子ハ
天子ハ祭祀ハ拙也とハ
ア天其感乃ハ
德をもて
より傳
かゝハ　問神明乃罰利生と
云たるハ事ハ
罰利生とハ
ハ神明乃
ハ伊勢大神宮
の心ふかゝゆゑ利生

云天をハ
ハ人なるとハ成かゝ紀ハ
君乃あなかゝ誠乃
ハ誰とそ
ハ道理ハ
ハ邪神ハ
ハ不測也
ハ諸人

仏ゆるしなきゆへ也とて仏ゆるしなけれ家事をなく紛乱のやうに見る
見ゆるゆへ也又ハ仏ゆるしあれとも正神の奇特を以て
天道の感應を又かくれたる人なりへ
殺さんとし給ひし時大風起て取ゆかしうるものを
吹たをしゝ也かゝ驚ろくゝ退散ス也天道ハ助也又陳蔡兩
国の間ハ圍也給ひて七日食絶ス給ひし時ハ果てゝ
凡人の神の神ハ理を知らさる者ハ此時ハ果ハ物ゝを
知ス爲ゝ知らさるゆへ
通力ハかゝの所あゝ来ゝ物ゝ
ゝゝ
一学者ゝ向て云我国の同志夜分ゝ會して静坐議論と
益を得ゝ可寛

若日君子会筋を法く静ゝ行住坐臥
共ハ静坐なれ何ゝ別ハ静ゝ
ゝ
其ゝ夜ゝ
ゝ
ゝ

各別の事也五倫に居て五等くとゝのの各動あり晝は動て
夜休は天下の教ゆる事久し晩に臨て道と尋ぬへ
古人後かゝ人学につきて惑を生ん心術を決し志を
朝飯後日中晩炊の後或は夜なしに春夏冬は初昏明秋
四つ時すてをくるかゝ毎日毎夜ゝ云しらはるゝ
らんをけるを不を以習ひ是とゝ我遊は會ゝ
けくをを益なれ事をれはゆゝなれよ文才あるゝよ書紙
ゝ為む文才をゝよ書簡議論ゝ集をゝ惑ゝ
ま心法はかくの俱ゝ真は折くの會は益あ多ゝ

一学者ゝ云先日我友格致の心法をゝ是切也と是なゝ未
ゝゝ　答云先日愚ゝ心法ゝ是用格致は義しゝゝならん
今日ゝ吾心定ゝゝいゝ心不為人ゝたくゝ慮しゝ

時はゝゝ感ずゝ不異ゝゝゝゝ或は至善ゝ語ゝまゝて
発ゝゝ時をゝゝ慎獨ゝ義は発する時をゝゝ皆自然也
今作為しくゝゝ親切の請ゝゝん記憶ゝ学はゝゝ
ゝゝ定ていゝんをれゝゝゝ

一学者問て云静坐して事をなすと用思雜慮を
て温和慈愛恭敬惺ゝゝゝ此安念去ゝ
ゝゝ来ゝ退治成ゝゝ　答云温和慈愛恭敬惺ゝ
を亦氣象也発して節は有る時は和ゝゝ此全
の名ゝゝを分ゝ大ゝを中と云ゝゝゝゝ為ゝ
ゝく寂然不動はしゝ感して通ゝゝゝゝ也学ゝ此
修ゝゝは初学ゝ受用ゝゝ様と云者のゝゝゝ
らくゝゝゝ真氣象ゝゝゝゝゝゝ

さてまた又伏羲氏なども孔孟よりは遠く
すぐれたる事なれども静なる時は心無欲なる
故に静中に静坐をなさるゝ心の心なくして時あり
てはなるまじきの心なくして時あり
てはなるまじきの心なくして時あり
てはなるまじきの

ちさう色〻学友乃會にいたるとなれやこの二人の友たいつる
父乃学術をきらへるハ愚癡なり性命の父母よりうけし孝
ときくたゝひ父命よりさらに無道を学ぶ道を学ぶ
人と成りて大なる孝のあるへしこれ父ハ勤當するゆへ
を我ハ非義なれとハいふもしかるときハ父と生
きて此時節をむなしく過さんまたあさ所なきなり
此両義の所ひ行ハ十の六七の深の義を取りて其の理
とを何ともらん極さめかたきもの折くをけり蒼
我ハ嫁乃義よりさくひ行らん大舜の性命乃父母より人倫
もく父母に心はかるひ行ハねやくふとハ父母大悪人にして
悪をきもれハなりと今世乃親父ハ悪人の名すれ長人
から年人也世乃の貴と見んよ学部のかたちを知りそ
見ハ實に人から年人也其上親父ハ人情時変の知識あり
世乃ハ此知識なり世乃ハ学術をいく親父よりさけを
思ひ行ハけもと学術をいくと害あるとハ父母を
益あるとハ凡人乃の不作法悪事をなるよりてハ
益あるとハ君子乃学ハ心と行ハ二ツ乃心正し
けもハ行正し心和とハ行を貴乃心術ハ心と
行と二なるかたし学友乃交ハ和ハ世間の交よ
を和なり右乃ことくさうらくるもと親類乃ちの離
也と同志乃ち書夜乃會をかせるとハ是ハ朋友
と云ハいもとをかさらん其年中の稽古ハ武士乃
家ハ武藝ををしへ馬合戦乃の
心かまるなり先以君ハ忠乃一門をもてまた朋友信

わるき父乃嬢ってるを不孝ならを貴ぶ也道理なく親父也
道理あるとく勤書なりは軟よりと不孝なりを何ぐとなれば
人倫を一例とおいて聖学とをん淺乃弱愚は棄愚人を為真
實報恩者と似ると名は聖学にしく實は異学なりを異
学は人倫と離きく別なりとくるを法なりを人道をとらーら
聖人を非やしくるものなれば聖学とする者は實を異学と合するを事は似なる
ものなれ聖門の衆人なりたやや一向よ五倫を離を五常
をおくる者をは人をを為なるを乃ちを不ちんを五倫を
為く五典を義を学ぶ武士は為く五常をはんごとしば
すとやうを虛とをとく實とは父兄とを父兄とをとて會合
議論とやは武家とは為く家業よりやはりはやはり
学文乃名とを去て作法正しく親類分音をみを貴為乃
他しは為ん親父を初く学術乃益を見為はよへ宿とく
人書を見為ふ人かをは誰ぐとくもを人はをん親類分音を
文をみを同学會合の席を成へ其間暇をとをく文紙
学い文をを為て友を會しは為て親父をさゆをけは為乃
学友を多は武士をれは為を武家を学ひ武家乃に議論講
ぐ為へ武士乃不作をを五倫乃親を離をく年月を
空しくしは為て可をんや他人を朝を笑へ文の淺
からぬ慈愛なを人を勤當しは為よを
心友問てをいしはをくしく心術の受用をくみを緑と
辞し官とをて静を成く志ををけをを上達を切をを
しはを文　答云聖賢乃学いをは為を淺假をを

扨さうんさくハ初めいなかの身ていく学ハてとそ おて
仕て学所を試ミ行ちんらしそ 世人ていさを官祿を去退て
変用をんさくハ何事をや遊民と称るよ今の学者乃風を
ききん會合扨ちけくして議論をぬと氣方ハわいろ人
くく打寄て晝夜とくあそをゆく学問の事ら民主人
ナくて如ハからハ妨安樂なんとおもんつ世人と称ゆいを
らげく一二変せハ心身をよ異端ら成者あん或ハ壯年或ハ
五病の者ハ事業多ていし所かて或ハ老人或ハ病者ハ
妻子乃ほうとなして ハ居かて近ハ江州ハ土民ハ富有ま
しく田地多しちろるよ民部かたと紙憂て名ある地士ま
谷字をとらい村中を招さよ也其由を披露せて今ハ
別名小勝鍬を取て田畠ハおやとみてを俄ハんと集ら

絶ハいなかなとしまハ士ハ賤しきつきをハせる
をかをと思ひ居よりうを年月ハうを默然ていろ大ハく
ぶしてハ云けるハ物ら成中ハきものを士ハ成ハ賤ハ居ハく
ちくハハわさとの也といて我ハ今ハ学者乃復利を好ハ志
ハらけく懐中夫乃悔あらんとをなげく也身ハうさ人の用ヒ
かうを奉ハせんとらハ退て氣力あ分間ハ文武乃道藝ハを
達せんをくれりハうハ文さとあるハき事なるを古ハ八歳ハを
三十歳ハて道藝ハをハかうを長ハる風をとかハよハうを佛
者とハとを学問修乃ハうをハ一日を身ハやをハ
をハ世ハ人道ハりハいくをや
一朋友問ハしハかををハ人をハくハ今ハなハしを例を
云人を万物ハ常なるをハ世ハ変ハ

今人と何にくをむとらう事乃ち好と仰ぐ沙人より人まで百
物まとかうたくふまの多しかりうものに天下国家に害なる
ものかと世人心に霊なるものあり人心よりはむしろ今国くに紀
物を生ずるなりをもしらに椿を好人の紅白二色をうそと
分ちよ人乃ちはなはそれひとつの百花をおもくを近
又三月つくりをはめくるこの花出来ぬ人道と徳とはなと
おの善人賢者餘多出来なんを多乃かうものあり乃ち出
古乃ちくを世ふうの人乃中なるものへ
一朋友同人のまくむ者に命なくの人のおくむ者に命山し花
ちに何をも　日と紀人よりはなるさるを長命なる者あり発
ちに長たるおくを短命なる人あるをいはくを思ふ者あり者に
あくをよりを短命なる者何をもとちに長命なれは

ちくみくを心よりかくもやく又好人に神氣霊なる人に病
者よりを儀やちくを命なし紀程をある霊草名木乃植ち
きるをしを悪人を神氣不霊なる者に無病と
あく命なる紀程を何ものを名をなき雑木野草にすくを
生長しやあし質ちくをくきくをなる悪をるをせとるをゆ
悪人乃地位よりを高ちにしてなを名をを人やちくを自と亡
やちし悪人の地位よりををしてをうをうを取ちる者に大学九
悪行ありてを人ちに公儀乃大法ををよりをちれに乱行を
ちくを一生紀ちるものを世如此者を神罰をはちし利根
なる人よりに神罰をちくを肉屋なるものに紀でをちくを
しく鳴をちをを世肉ををを拵たををを紀かをを
あをを吉凶乃應を命かくのを

一心友問随分に悟道修行の僧とゝなる佛法をそし毛
念慮の氣あるゝ者かゝのゝ心学者とゝなる儒を
そし孔の不幸に至る人なくとゝもそしるゝ心位ハ
為ることゝ作り　云何道何学といひて又真者よりく
ぎのをかゝぎのあるハ大道よりあるゝ佛学のといまゝ
聖学ハ人道也一人乃私をさよあるゝ人ゝ
己をそしる道何を道より私して不幸乃氣のゝんやゝ非
をそしらハ省察をしし道をそしらハ默をし默して默
せるハ真心乃正よりあるゝ君子ハ己より益なく人より益なし
の言ハ発せず
一心友問書をよゝ者ゝ志のゝらハ善人すて悪人
幸ハ悪人と幸より悪人ハ今より文学をゝ志なし

残念なる事也　曰法幸なる人乃善信愛大聖神より志
ざしあるまゝくたまゝとせず人ハ至誠無息乃天真よりある
年老ゝるゝ人の残多ゝ芸を亦あやゝまる也人乃人ゝる道を
知ゝ神人死生疑ハ大なる恨をもゝ芸あり　なよ
道を空のゝ多ゝ死をゝる可也ゝ　ゝ芸わ猿一目を進
ゝ法ゝん幸なる貴愛をもてよ善人の數也信愛の法
ゝ法ゝとゝ不息乃性存也何乃恨むる事あらん
一心友問異端ハ空ゝ云毎ゝ云聖学ハ実乃ゝ
巷空則実なる形色あるゝのハ常なる物ハ真
乃実よりあるゝ形色なるゝあハ常なる常ゝるゝ
実ゝる異学ハ毎ゝ空ゝ云ゝ聖学ハ毎ゝ盡
なるゝのなる上天ゝゝハ聲ゝなく臭ゝなる

是所ゝ好人ゝ心静ゝ色見ゝ次福来ゝ甚ゝ
ゝ稠ゝ事ゝ甚憂ゝ呼吸ゝ息ゝ
生ゝ綿ゝ生ゝ泥想ゝ云色槁木死
灰ゝ害ゝ異学ゝ有ゝ真ゝ有ゝ
無ゝ云真ゝ無ゝ義理ゝ行
欲ゝ者ゝ生ゝ義ゝ知ゝ義理ゝ
ゝ者ゝ禽獣ゝ欲ゝ
義ゝ道ゝ琵琶筆ゝ
其形ゝ有ゝ虚中ゝ無ゝ
道ゝ天地万物有無不離ゝ道存ゝ有ゝ
ゝ無ゝ中ゝ神性命ゝ性命ゝ
遁ゝ有無ゝ自然ゝ形体君子ゝ無ゝ形

無色無聲ゝ身ゝ色

一心友問書簡ゝ先王ゝ喪服ゝ数ゝ過ゝ
ゝ心得ゝ伯ゝ
年ゝ喪ゝ孔子ゝ琴ゝ
ゝ哀情ゝ先王ゝ礼
ゝ夏三年ゝ喪孔子ゝ
琴ゝ接ゝ
哀情ゝ先王ゝ礼
退ゝ孔堅ゝ
ゝ過ゝ
愚ゝ上古ゝ

答曰
ゝ先王ゝ天ゝ

拙を去り巧を誠を本とし給へ給へ人倫の道は自然よりこれを給へ給へ人倫の制作を先とし給へ
こころの誠を本とし自然に應し時よりこれを制作はかりまた爲に適る誠
をゆるかせを立る迄自然に應しこれ作爲なり
先法乃ちこれ也援世り生まれつき情ある者古人
おもふこと三年の喪にのぞみしよせめくに成る
三年を及ぶそこかハ義也と思ひくらくてのうち
中古乃ちと紀ハ今乃あれさまを陶さまして世中事
もくはく敬ひく情ちこれ孔子乃時より年人より三年
の喪をなしむる者ハすれなり七十二賢孔
門すと下ハ喪を有魚ちこれ三年乃喪より朝小祥祭の礼ハ行
ダ1歌ちひし者と子路の笑りまし孔子実に思ひ
と責ちしやすれ三年の喪ハ久しきの行て世中ちこ
ハ人情乃ちこれ熟ハ見ちのく餘年ハ紀を
加ハなり成ちこれ法をめしむるを以く聖作乃
ちわ世を偽を教ちを何と天より継く植を立ひ
忠質とちと礼ハ後なりこれ主意をもんや今乃人情
精力すくハ月本主代乃服期乃法所かしこれをめし
道ハ自ちしてハ立ちかちと今乃俗よりかもん
事をくちを乃氣質と学力ちふわるもたちの道行ハちを
もちあり乃法のちくハ成ちこれ日本乃水土よりる
の制ハ多ちを　同因子乃ちこ年の喪縮てを哀情や
ちちを君子なちるかをを乃法ハ也なら子夏ちを

くはしくめくらしたのめるをとも君子なるべしとて貢
のうちひとりは孔聖乃ち人倫ひ〳〵ハ大分通〳〵仕事先
上下清深に位ハたらうなるやうにハ仕ら　云図子ハ
氣質義ようて文学乃ぬうしあるとなり給へる也
夏ハ天質ようて学力ようて学ハ学ようて志
うハ図子氏質ようハ図子ようハ乃なとあるんを夏ハ質にて
子夏ハ乃ひうかんを世界の人とみるに能的の聖人ハ富
行ようふ是也篤実の質ハ才知なを不足也顔子図子ハ二なうう
かゝるる氣質なり其上聖学をわきまハ大賢人なり知もく
らく行もすぐれて文学を不知者と愚不肖と云也此愚不肖
上聖賢者の徳化を蒙き人〳〵感者也先王民をとうう
志ひ〳〵志ひうとあるを中庸　集義和書第三

明治三十九年八月廿九日
四谷区左門町五十九番地
樂亭徒然子蔵書